

企業会計的手法で見た滋賀県財政

1 平成 16 年度バランスシート等の概要

現在、国や地方公共団体の会計は、「収入」と「支出」の面からのみ財務管理するいわゆる単式簿記で処理されていますが、近年、財務状況を資産や負債といった側面から把握する手法として、企業会計的手法で見る試みがなされており、本県においてもバランスシート等の財務諸表を作成しています。

今年度は普通会計におけるバランスシート、公営事業会計を含めたバランスシートおよび行政コスト計算書に加え、総務省が作成した試行マニュアルに従って、地方三公社や県出資比率が二分の一以上の第三セクターなど関係団体を含めた連結バランスシートを試算しました。なお、参考としてキャッシュ・フロー計算書を作成しています。

平成 16 年度の特徴

バランスシート

資産： 対前年度△194 億円
有形固定資産、投資等、流動資産のすべてで減少

有形固定資産は、減価償却費の増加等により減少するとともに、財政調整基金や県債管理基金等の基金の取崩し等により流動資産、投資等が大幅に減少しました。

負債： 対前年度+149 億円
固定負債が大幅に増加

臨時財政対策債などの発行により、県債残高が増加したため、前年度に引き続き固定負債が大幅に増加しました。

正味資産： 対前年度△343 億円
一般財源等が大幅に減少

正味資産は、一般財源等が前年度に比べ 306 億円の減となり、これまでの世代によって負担された比率が低下し、将来世代の負担が増加しています。

行政コスト計算書

県民 1 人当たりコスト：
対前年度△6,232 円
人にかかるコストをはじめすべての性質別コストで減少

人にかかるコストは、職員給与費の減等により県民 1 人当たりで 465 円の減になるとともに、扶助費、補助費等の減により移転支的コストが県民 1 人当たりで 5,559 円の減となるなど、すべての性質別コストで減少しました。